

Z305a 水沢の歌にみる緯度観測所と木村栄

馬場幸栄（一橋大学）

岩手県水沢の緯度観測所（明治32年-昭和63年、現・国立天文台水沢 VLBI 観測所）およびその初代所長・木村栄（在職：明治32年-昭和16年）は地域の人々から親しまれ敬愛されていた。そのことは彼の地で愛唱された幾つかの歌からもうかがうえる。たとえば水沢高等女学校（大正15-昭和23年、現・水沢高等学校）の校歌『岩手県立水沢高等女学校校歌』は、第1番の歌詞が「旭日の国の東北 北緯三十九度八分 世界を通じてただ三つ 緯度観測のあるところ…」から始まり、第2番の歌詞も「経と緯とより世の位置の 定まる如く…」から始まる。また、水沢町長の肝いりで作られた郷土民謡『水沢小唄』第6番の歌詞にも「緯度を測るよ コリヤサ 世界に三所サ ソリヤサ 木村博士の功は高いナア Z項…」とあり、緯度観測所の国際的な活動や「Z項」を発見した木村栄の学術的功績が水沢の人々から郷土の誉れとして讃えられていたことがわかる。文献、絵画、写真、レコード、CD および水沢の人々の証言などから、『水沢高等女学校校歌』と『水沢小唄』の歌詞やその背景について報告する。